2024年度 報告書

東邦大学 教育・研究支援センター

日本全体の研究力低下が危惧されています。例えば、Top10%論文数やTop1%論文数などで測られる論文の質の世界順位が下がってきています。研究費の伸び悩み、研究に割ける時間の減少、博士課程進学者の減少など、さまざまな要因が挙げられています。医学部・病院においては、医師の働き方改革もおおいに影響していることが指摘されています。本学においても、例外ではありません。なんとなく答えの見えない迷路に置かれたような、不安感・閉塞感が漂っていると感じるのは私だけでしょうか。

2025年は本学にとって、創立100周年の記念すべき年です。憂いてばかりもいられません。皆で知恵を出し合い、協力して、明るい未来を築いていきたいものです。教育・研究支援センターの1年間の活動を、その自己点検・評価とともに報告書にまとめました。ご一読の上、ご意見を賜れば幸いです。

教育・研究支援センター長　西脇 祐司

contents

《巻頭特集 鼎談》
東邦大学の研究の現状とこれから 01
研究支援 03
研究オンライン講座 05
2024 ノーベル賞解説セミナー 06
URA のご紹介／教育・研究支援センター 07
学内外補助金事業支援 08
学内外補助金事業支援【TUGRIP】 09
社会連携推進活動 13
2025 年度計画 19

巻頭特集　鼎談

東邦大学の研究の現状とこれから

研究支援に関わる３人が、本学の研究の現状とこれからについて語りました。また、その話を受けて渡邉学長に想いを語っていただきました。

西脇 祐司
センター長 西

古田 寿昭
副学長兼理学部長 古

仁木 保
特任教授 仁

東邦大学の研究の強みと課題

西 西脇 本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。まず、研究担当副学長の古田先生と研究支援を専門とされるURAの仁木先生にお伺いします。本学の研究の現状について、総論的にどのような強みがあり、どのような課題に直面しているでしょうか。

古 古田 本題に入る前に申し上げたいのは、個々の研究者は研究を着実に頑張っておられます。これからもさらにその成果を伸ばしていけるように支援をしていきたいです。個々の研究からプロジェクト型研究や社会実装を意識した研究に発展して、当初の目的を広げていく、日本の科学研究を支えられるようになることを期待しています。

本学の研究は、基礎研究と応用研究のバランスが取れている点が強みです。特に、自由な発想を重視したボトムアップ型の研究が多く、多様性にも富んでいます。科研費を始めとした外部資金で個々の研究が進められており、若手研究者も独立して研究を進められる環境が整いつつあります。ただ、大型研究費やプロジェクト型研究の獲得は少し弱いので、その点が今後の課題であり、ここを強化する必要があります。

西 古田先生が在籍されている理学部の研究は、支援する我々から見ても非常に多様性があり面白い研究をされていますね。その面白さをもっと前面に出していきたいです。

仁 仁木 私は毎週習志野キャンパスに行って、理学部や薬学部、健康科学部の先生方と情報交換をしています。私の印象ですが、理学部は講座制ではないことから、個々の研究室が独自性をもち、研究も活発です。私立大学の理学部の中で純粋な生物学をされている研究室は少ないので、そこは強みになると思います。情報科学科もありますので、今後は医学部とも連携を強めて、AIやデータサイエンスの応用研究を学内で進めていただきたいです。また、若手の優秀な研究者が多く、すでに成果を上げている方もおられますが、今後は大型プロジェクトや学際的な連携の場にどんどん参画していただき、力を発揮してほしいです。

学際連携と未来への展望

西 本学の研究は今後どのような方向性を目指していくべきでしょうか。

古 学部間や学外との共同研究を強化するべきです。先ほど仁木先生も話されていましたが、学内では理学部と医学部、薬学部の連携を深め、AIやデータサイエンスを活用した新しい研究分野を開拓したいと考えています。また、地域社会や企業との連携を通じて、研究成果を社会に還元していくことも重要です。5学部合同学術集会も開催していますので、もっと研究者が交流し、思わぬつながりから新たな研究の芽が出てほしいです。

研究の多様性においては、今後は研究チームに企業の方、外国の方を取り込む仕掛けも考えたいと思っています。

仁 情報科学科には優秀な研究者が多いと思います。医学部、薬学部、看護学部、健康科学部の先生方と連携し、知見を融合していくことで、一つの学部でできなかったような新しい研究が生まれるでしょう。AIやデータサイエンスの応用は、医療分野で非常に期待されています。学内の研究者間でこのような連携を進め、科研費の増額や国際共同研究の推進につなげていきたいです。

西 東邦大学重点領域研究補助金（以下、TUGRIP）が創設されて５年になります。学部を超えたチームでさまざまなテーマに取り組むことが、セミナーの開催などを通じて学内に浸透してきたように思いますが、今後の方向性についてのご示唆はございますか。

古 他大学の研究プロジェクトのつくり方、発展のさせ方などを参考にされるのもよいかもしれません。例えば広島大学は、学内にインキュベーション研究拠点を数本もっていますね。国際共同研究や学内の研究チームで大型の研究費獲得を目指すとか、複数年支援することで成果は出ているように思います。国際会議やシンポジウムを開くことを条件に入れておくことで、外部とつながりができ、共同研究を強く後押しできることになります。これは一例ですが、他大学の取り組みを調べて、参考になるものがあれば取り入れてみることも一案かと思います。

若手研究者の育成と支援

西 若手研究者の育成にはどのような施策が必要だとお考えですか。

古 挑戦しやすい環境の整備が重要です。具体的には、研究費の助成や国際学会への参加支援を充実させること。また、若手が大型研究費を獲得できるような支援体制を構築する必要があります。

仁 メンター制度を活用し、経験豊富な研究者と若手が共同で研究を進める体制を強化すべきです。また、URAの増員による研究支援の強化や、産学連携を促進するための体制整備も必要だと考えます。

今後の新たな挑戦

西 今後の新たな挑戦として、理学部をさらにパワーアップさせた新学部設立構想がございます。こちらの経緯とどんなことを期待されているのかについて、お考えをお聞かせください。

古 東邦大学を象徴する研究を担えるような研究者の力をもっと伸ばしていきたい、東邦大学が自然科学系の分野でここが強いね、と外部から認められるようなものを増やしていきたいと思います。太い幹をつくるような感じです。参考にしたのは、医学部も病院ももたない大学でも、医工連携を前面に出して研究者を集めた理工系学部をつくり、研究所も設置して独自の特長にしていることです。理学に工学を加えることで強みが増すことを目の当たりにしてきた、ということも背景にあります。

西 附置研究所をつくる、というのは急には難しいかと思います。しかし、ユニークな研究で有名な大学は、得意な研究に特化した研究所をもっています。研究センターでも研究ユニットでもいいと思いますが、何か大学の看板となると思うのです。そのあたりのご意見はいかがでしょうか。

古 その考えに同意します。建物を建てて研究所とするのはすぐにはできないと思いますが、バーチャルでセンターをつくることから始めてもいいかもしれません。また、大森と習志野の両方に研究センターがあってもいいかと思います。これは学内外へのアピールにもつながり、研究推進の重要な拠点となるはずです。既存施設の活用や新設により、学際的な研究を促進する場を設けたいです。

仁 私も東邦大学の看板になるような、研究センターのようなものは大事だと思います。時限的なテーマ設定で、研究者が集中的に取り組む場を提供するのもよい方法だと思います。これは内部活性化にもつながります。そして、何か研究の目玉になるようなものがあれば、外部発信もしやすいですし、産学連携や寄付講座へつながる展開も期待できると思います。

西 本日は貴重なご意見をありがとうございました。東邦大学の研究がさらに発展するための方向性が明確になったと感じます。引き続き、研究環境の改善と発展に向けて尽力いただければ幸いです。

東邦大学学長より

渡邉 善則　学長

東邦大学の研究と５学部の連携の推進

東邦大学は、大森と習志野に2つのキャンパスと医学部に付属する3つの病院を有し、医学、薬学、理学、看護学、健康科学の5学部でそれぞれ独創的な研究を行っています。個々の研究成果を大学全体で共有し、「オール東邦」として認知されることを目指したいですね。学問として基礎から応用まで網羅する研究から、実利的な臨床の研究まで、幅広い研究ができることが本学のよいところであると思います。

研究支援としては、従来通り、各学部での研究を推し進めつつ、5学部間の連携を強化するために、研究者が集う場や研究体制をつくりたいと考えています。例えば、毎年開催される5学部合同学術集会などは、より活発にしたいところです。また、習志野と大森をつなぐことは、研究者同士の交流や活発な意見交換につながり、個々だけでなく共同での新しい研究に発展するものと予想します。研究環境や体制を大学全体で整備することで、新しい教育・研究のモデルをつくり、産学連携や官民連携を通じて、新しい東邦大学の形を模索していければと思います。

若手研究者の育成に向けて

若手研究者を積極的に巻き込み、自由な研究が推進できる環境を整えたいと考えています。例えば、従来の経験豊富な研究者が若手を指導する方法ではなく、若手研究者に大胆に役割を委ねてみる。そこで新しい視点やアイデアが生まれ、役割が若手研究者を育てていく。その循環が大学全体をさらに活性化する、とつながっていくことを期待したいですね。

未来の大学像とは

物理的なキャンパスに頼らず、仮想空間を活用した教育や研究を行うことは、近い将来当たり前のものとなるでしょう。私たちもこの変化に乗り遅れず、柔軟に対応できる大学の姿を模索していかなければなりません。2つのキャンパス、3つの病院に所属する研究者たちが、仮想空間で共同研究を自由に進められれば楽しいのではないでしょうか。そのためにも、鼎談で先生方が話されていたように、何か特徴的な研究テーマがいくつか立ち上がり、そこに学部を超えたチームができるといいですね。TUGRIPもうまく活用し、大学の支援から始まったものをさらに外部の大型研究費獲得へと発展させてほしいと思います。この未来に向けた道筋を照らしていく方法を、古田副学長や教育・研究支援センターと一緒に考えて参ります。

研　究　支　援

研究支援コンサルテーションデスク

担当
URA　仁木 保 特任教授 理学博士

URA（University Research Administrator）が研究に関する多様なご相談を、研究支援コンサルテーションデスクで受け付け支援いたします。科研費の申請に関するご相談、公的・民間助成金などの情報収集や申請に関するご相談、企業との共同研究に関する事前のご相談、そして研究成果の知財化など、研究者のさまざまなご相談に対応いたします。

研究成果の外部発信として効果的なプレスリリース支援も行います。個別面談を通じ、研究者を深く知り、学外へ発信するためのツールとして研究者紹介リーフレットの作成も進めています。お気軽にご利用ください。

2024 年度コンサルテーションデスク実績

コンサルテーションデスクは、大森キャンパス（月・火・木・金）習志野キャンパス（水）で開設し、延べ18名（個別相談者：大森2名、習志野16名）の研究者との面談・個別相談を行いました。また、研究者から好評を得ている**「科学研究費個別相談会」**を医学部URAと連携して企画し、今年度も2回開催しました。

コンサルテーションデスクへのご相談は、いつでも申し込みが可能です。HPまたはQRコードの相談フォームからお申し込みください。

相談フォーム

対象学部	薬学部、理学部、看護学部、健康科学部 ※ 医学部は研究推進室リサーチ・アドミニストレーション部門へご相談ください
利用方法	教育・研究支援センター HPの教育・研究支援サイト内にあるコンサルテーションデスク相談フォームよりお申し込みください

科学研究費申請書個別相談会

研究支援のプロフェッショナルURAによる**科学研究費個別相談会**は、今年で4年目になります。夏の申請書提出に向けて、昨年の結果を振り返る5月の相談会、そして作成途中の申請書のブラッシュアップと方向性の相談ができる 7・8 月の相談会と、皆様の作成スケジュールに伴走できるように企画をしています。今年は5月の会に合計47名、7・8月の会に合計27名の申し込みがあり、5学部の先生方そして臨床現場の先生方にご利用いただきました。春先には、一緒に頑張った結果をご報告いただけることを楽しみにしています。

研究成果のプレスリリース作成支援

研究成果を広く社会に発信していくことは、大学にとしての使命でもあり、研究者自身の研究成果のさらなる向上につながる有用な活動です。また、効果的な発信は、本学のプレゼンスを高めることに貢献できると考えています。今年度は、35件（2月上旬時点）のプレスリリースの作成・発信支援を行いました。研究成果や活動をプレスリリースで配信をご検討されている方は、ぜひコンサルテーションデスクまでご連絡ください。

論文適正化にむけて

近年、論文投稿の際に事前のチェックを求める科学雑誌が増えてきています。個人利用では金額負担の大きい論文の類似性チェックツール（iThenticate）を、大学が契約することにより本学教員が自由に利用できるようにしています。2020年の導入以来、利用件数も増えています。論文作成時の確認に、ぜひご利用ください。

なお、ご利用にあたっては事前に利用登録が必要です。HPのユーザー登録フォームから申請をお願いいたします。

登録フォーム

対象学部	本学の常勤教員（助教以上） ※ 教育目的での利用はできません ※ 学部生・大学院生は利用できません
利用方法	ユーザー登録フォームより事前申請 ※ 1 回の申請で 3 か月の利用が可能です

研究支援セミナー

今年の研究支援セミナーは、6月に広告・映像制作会社で SNSの運用にも携わる講師をお招きし、**「研究成果をSNSで効果的に発信する方法」**を開催しました。また、専門家をお招きし**「科研費採択をつかむためのポイント解説セミナー」**を開催し、多くの教職員が参加しました。そして、10月にはコピーライターをお招きし、ダイバーシティ推進センターと共催で言葉について学ぶセミナー**「読む人は誰だ」**を開催し、広告を通じて相手に届く言葉の考え方、つくり方を学びました。

1

2

3

1 研究成果を SNS で効果的に発信する方法
共　催：ダイバーシティ推進センター
開 催 日：2024年6月6日（木）

2 科研費申請の最新動向 ～採択をつかむためのポイント解説～
共　催：ダイバーシティ推進センター
開 催 日：2024年6月27日（木）

3 スキルアップセミナー「読む人は誰だ」
共　催：ダイバーシティ推進センター
開 催 日：2024年10月16日（水）

研究支援セミナーの動画配信（研究オンライン講座）

これまでに開催した研究支援セミナーを中心に、動画配信をしています。教育・研究支援センターのHPからの視聴が可能です。研究費申請書の書き方、研究に必要な疫学・統計学、英語のプレゼンテーションなど、幅広く学びを深めることができます。本学教職員ならどなたでも、いつでも視聴可能です。（学内限定）

研究オンライン講座

研究者紹介リーフレット

研究者の情報発信のツールとして、**研究者紹介リーフレット**を作成しています。理学部、医学部からスタートし、昨年は健康科学部、今年は看護学部の研究者にご協力いただき、リーフレットが作成できました。これまでに理学部18名、医学部10名、健康科学部2名、看護学部7名の合計37名分のリーフレットが完成し、HPからダウンロードが可能です。学外の大学や研究機関、企業や自治体への情報発信として活用していく予定です。

研究者紹介リーフレット

研究支援に関する自己点検・評価

評価

研究支援は、以下のような実績をあげ、本学の研究者支援に十分貢献できたと考える。特に学内研究者をPRする制作物、セミナー等の企画の充実が図れた。

実績

- URAによるコンサルテーションデスクは延べ18名の研究支援関連の相談があり、継続した相談案件も増えている。科学研究費申請個別相談会は、5月に不採択になった申請書と審査結果をもとに申請内容の振り返りをした（17名利用）。また、7・8月に開催した申請直前の個別相談会では、申請書のブラッシュアップの支援を行った（14名利用）。
- 6月に科研費申請の最新動向・申請書作成支援、そしてSNSを利用した効果的な研究成果の発信方法、2月には学内の研究者が主軸となった腸内細菌叢研究セミナーを開催した。
- 研究者紹介リーフレットは、理学部18名、医学部10名、健康科学部2名、看護学部7名のとなり、合計37名分（昨年から＋13名）を HPに掲載した。
- 論文発表された研究成果の広報活動であるプレスリリースの原稿を、URAが専門的な視点で確認し、35件が配信された。
- 研究論文の適正化を確認するための論文剽窃検知ソフトは、168論文に利用された。昨年に比べると利用数が27件少なかったが、研究論文の適正化に貢献ができた。
- ノーベル賞解説セミナーは、150名超の事前申込があった。当日参加者も昨年より増え、教職員から学部生・大学院生と幅広い参加（123名）があった。この取り組みは、動画配信を学外向けにも行い、本学の研究者のよいアピールの場ともなった。
- 2025年1月からはURAが2名体制になった。

今後の課題

- 科学研究費申請支援のためのさらなる企画等を検討する。
- 研究オンライン講座の利用者が少ないため、周知活動等利用促進策を実施していく。
- 研究者紹介リーフレット作成は5学部すべての掲載を目指す。

研 究 オ ン ラ イ ン 講 座

教育・研究支援センターでは、これまでに開催したセミナーや講座のうち、動画配信可能なものを集めたサイト**「研究オンライン講座」**をHPにご用意しています。本学の教職員であればいつでも視聴が可能です（視聴の際には、Web認証のID・パスワードが必要です）。
研究支援セミナー、**TUGRIP（東邦大学重点領域研究補助金）セミナー**、**社会連携セミナー**の3つのカテゴリーに、さまざまな動画を収蔵しています。ぜひご視聴ください。また、研究支援に関するセミナーへの皆様のご意見・ご要望をお待ちしています。

研究支援セミナー

研究支援セミナーは、研究推進に必要なトピックで開催されたセミナーを集めています。臨床研究に必要な疫学・統計学、研究計画書の書き方を網羅した講義「臨床研究ベーシックセミナー」や、編集者の視点・査読者の視点で英語論文を書くコツを伝える「アクセプトされやすい英語論文のまとめ方」、統計ソフト「Tableau®」の活用方法や、科研費採択のためのポイントセミナーなど、幅広いテーマのセミナーをいつでもご覧になれます。

疫学・統計学

- 臨床研究ステップアップセミナー（2019年9月）
- 臨床研究ベーシックセミナー　（2020年11月）
- 統計ソフト「Tableau®」活用セミナー（2023年 3 月）

英語

- アクセプトされやすい英語論文のまとめ方（2021年7月）
- 英語プレゼンテーションセミナー（2022年5月）

申請書作成

- 科研費採択をつかむためのポイント解説セミナー（2023年6月）／（2024年6月）

研究情報の発信

- 研究成果を SNS で安全に発信する方法（2024年3月）
- 研究成果を SNS で効果的に発信する方法（2024年6月）

その他

- 2022 年ノーベル賞解説セミナー（2022年12月）
- 2023 年ノーベル賞解説セミナー（2023年12月）
- 2024 年ノーベル賞解説セミナー（2024年12月）

- 令和4年度第1回 ABS セミナー（2023年3月）

TUGRIP（東邦大学重点領域研究補助金）セミナー

TUGRIPの採択グループは、毎年本学教職員に向けた各種セミナーを開催しています。研究グループメンバーがTUGRIPのテーマに沿って研究紹介をするセミナー、そして研究機器の使い方等を紹介するテクニカルセミナーに分けて開催されています。

令和２年度採択事業（研究代表者：医学部 教授 中野 裕康）

- TUGRIP セミナー
  - 重症感染病態におけるマクロファージ・単球制御による治療戦略

令和４年度採択事業（研究代表者：理学部 准教授 村本 哲哉）

- TUGRIP セミナー
  - 細胞を生きたまま観察するライブイメージング
  - 放線菌の遺伝子組換えと抗生物質生産への応用
  - 発生工学技術で世代を超えるエピゲノムの秘密に迫る

令和５年度採択事業（研究代表者：医学部 教授 船戸 弘正）

- TUGRIP セミナー
  - 筋萎縮性側索硬化症（ALS）克服へのロードマップ
  - レム睡眠のメカニズムの意義
  - 視床下部が制御するマウス生得的社会行動の神経基盤

- テクニカルセミナー
  - ニューロンモデルと神経回路ネットワークのシミュレーション
  - 個体から分子までの多階層解析手法 - 脳・神経研究を題材として -

令和６年度採択事業（研究代表者：理学部 教授 岸本 利彦）

- TUGRIP セミナー
  - 包括的ゲノム科学推進プラットフォームを介した共同研究について
  - ゲノム科学推進プラットフォームでの RNA-Seq 利用の実際

社会連携セミナー

社会連携セミナーは、学外とつながりがある活動をまとめたものです。本学も参画している「カーボン・ニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」への取り組みについて、理解を深めるためのセミナーを掲載しています。

- **第１回「東邦大学はカーボン・ニュートラルとどう向き合うか」**（2022年３月）
  - カーボン・ニュートラル達成に貢献する大学とその評価　他
- **第２回「東邦大学はカーボン・ニュートラルとどう向き合うか」**（2023年３月）
  - 千葉県におけるカーボン・ニュートラル戦略　他
- **第３回「東邦大学は地球温暖化とどう向き合うか」**（2024年２月）
  - 地球温暖化の現状と見通し　他
- **第４回「東邦大学は SDGs とどう向き合うか」**（2025年２月）
  - 理学部統合科目　SDGs について学ぶのカリキュラム　他

2024 ノーベル賞 解説セミナー

今年で3回目を迎える**「ノーベル賞解説セミナー」**は、学内に通知をするとすぐに申し込みが入るほど、人気の高い企画となりました。今年の3賞を解説してくださったのは、理学部の先生方です。
生理学・医学賞は生物分子科学科の鹿島誠講師、物理学賞は情報科学科の数藤恭子教授、化学賞は生物分子科学科の後藤勝准教授にご担当いただきました。先生方の簡潔な解説文もわかりやすく、興味をかき立てられます。当日のセミナーの動画は、下記のQRコードからアクセスして視聴ができます。ぜひご覧ください。

ノーベル生理学・医学賞の研究のみどころ

理学部 生物分子科学科 講師　鹿島 誠

miRNA（マイクロRNA）は、タンパク質をコードしない細胞内に存在する多様な短い非コードRNAの総称で、生命現象に影響を与えない単なるゴミだとこれまでは考えられていました。しかし、実際はさまざまな遺伝子発現制御に普遍的に関わることが明らかになり、生命科学の基本概念を再定義し、がんや神経変性疾患などの治療法に大きな影響を与えました。発見経緯とその波及効果に関して、miRNAの発見がもたらしたインパクトを紹介します。

ノーベル物理学賞の研究のみどころ

理学部 情報科学科 教授　数藤 恭子

今回のノーベル物理学賞「人工ニューラルネットワークによる機械学習を可能にした基礎的発見と発明」は、情報学分野に関係する受賞で話題になりました。物理学者のホップフィールドが提案したネットワークによる連想記憶の仕組み、ヒントンが提案したボルツマンマシンと統計力学分野の関連性、それらを基礎として現在のディープラーニングが可能になるまでの流れを紹介します。

ノーベル化学賞の研究のみどころ

理学部 生物分子科学科 准教授　後藤 勝

2024年のノーベル化学賞受賞者の研究は、従来のタンパク質構造解析に比べ、はるかに迅速かつ効率的に、新たなタンパク質を設計したり、既知のタンパク質の構造を予測したりすることを可能にしました。この技術は、創薬や素材開発など、幅広い分野に革命をもたらす可能性を秘めています。特に、コンピューターによるタンパク質設計は、オーダーメイドの酵素や、新しい材料の開発など、従来では考えられなかったような可能性を開いています。

仁木 保 特任教授 からのコメント

今年で3回目となるノーベル賞解説セミナーを開催いたしました。150名を超える申し込みがあり、参加者も学生、大学院生を含め、120名を超えており、自然科学系のノーベル賞解説に対する関心が、教職員のみならず、多くの学生や大学院生にあることを再認識いたしました。講師として解説いただきました理学部の3名の研究者からわかりやすい解説がなされ、ノーベル賞に対する理解がさらに深まったことと思います。本セミナーは引き続き毎年開催できるようにしたいと思います。

オンデマンド配信中
ぜひオンライン講座をご覧ください

URA University Research Administrator のご紹介

仁木 保　教育・研究支援センター 特任教授 ／ 社会連携推進室 室長

2020年6月から、東邦大学 教育・研究支援センターのURAとして着任しまして5年目となります。前職では、東京理科大学 研究戦略・産学連携センターのURAとして8年間、その後、慶應義塾大学 薬学部 学術研究支援課 研究推進専門員URAとして5年間在籍、経験してきました。本学で三大学目のURAですが、各々の大学によって、その研究支援、産学連携、知財戦略等の方針、体制、組織が異なり、URAとしての業務も異なるため、それぞれの大学に合ったURAとしての取り組み、業務、活動などが求められます。

本学でのURAの活動としては、研究支援を中心とした活動を展開しており、公的研究費のプレアワード、ポストアワード業務、学内重点領域研究補助金（TUGRIP）事業支援、コンサルテーションデスク活動、研究者情報発信、研究支援セミナー企画、開催などの業務を推進しています。

今後は、研究実績が豊富な教員の研究支援のみならず、若手教員へのさらなる研究支援、大型公的研究費獲得、研究情報の外部への発信などに注力することが、より一層の本学の研究レベルアップ、プレゼンスの向上に結び付くと考えますので、さまざまな研究支援企画、活動を展開していきたいです。

荒川 健司　教育・研究支援センター 特任教授

2025年1月1日付で、東邦大学 教育･研究支援センターに URAとして入職いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

前職では製薬会社に勤めておりました。長年研究所に在籍し、主に糖尿病治療薬の薬理学的研究に従事しました。世界に先駆けて sodium glucose co-transporter 2（SGLT2）阻害薬の研究を進め、2型糖尿病治療薬カナグル®の上市に漕ぎ着けることができました。また、アカデミアや海外企業との基礎および臨床の共同研究の企画・推進にも力を注ぐとともに、自社が資金提供する研究助成や教育助成プログラムの審査などにも携わりました。

URAの経験は皆無で不安はございますが、これまでの経験や企業ならではの視点を生かすことで、一味違った先生方の研究の支援や産学連携の推進が図れないかと考えています。主役である研究者の先生方が輝くために、「どうしたらよいか？」をとことん考え、少しでもお役に立てるよう頑張る所存です。

プライベートではランニング愛好家なのですが、最近は故障がちで、満足のいくパフォーマンスが発揮できていません。体のケアをしっかりして、フルマラソン 4.5 時間切りを早く達成したいです。

教育・研究支援センター

センター長
西脇 祐司
医学部 社会医学講座衛生学分野 教授

医学部 副センター長
船戸 弘正
医学部 解剖学講座微細形態学分野 教授

薬学部 副センター長
福島 健
薬学部 薬品分析学教室 教授

理学部 副センター長
尾関 博之
理学部 生命圏環境科学科 教授

看護学部 副センター長
岸 恵美子
看護学部 公衆衛生看護学研究室 教授

健康科学部 副センター長
小板橋 恵美子
健康科学部 コミュニティヘルス領域 教授

社会連携推進室長 特任教授 **仁木 保**
特任教授 **荒川 健司**
特任准教授 **広田 幸子**
事務職員 **丸山 達也**、**斎藤 香代子**

学内外補助金事業支援

大型補助金に関する支援

教育・研究支援センターは、文部科学省を始めとする国の大型補助金の申請に関する支援を行っています。
情報収集から申請書提出までの支援、そして採択後の運営支援まで、幅広く対応しています。

プレアワード支援

プレアワード支援とは、外部資金の情報収集や補助金の企画立案支援、申請資料作成支援など、**大型補助金獲得を目指した支援**です。また、学内外の補助金の情報収集から、本学で申請可能な案件の抽出と検討も行っています。

ポストアワード支援

ポストアワード支援とは、採択後の**大型補助金事業が適切に運営できるように支援**することです。補助金事業の期間は、管理運営を行う部門の設立、事業の進捗管理、学外への情報公開や報告書作成支援などを行います。また、補助金事業終了後の学内事業継続の方法についての相談にも応じます。

文部科学省競争的補助金　2021 年度・2023 年度・2024 年度

2021年度　大学改革推進等補助金
ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業　総額 54,903,000 円（単年度）

４学部（医学部、薬学部、看護学部、健康科学部）が協力して、感染拡大時においても臨床実習に替えて学内で実習・演習が十分にできるための機材の充実、教育プログラムの構築を行いました。
申請書作成支援

2023年度　JST 次世代人材育成事業 **女子中高生の理系進路選択支援プログラム**　2,650,000 円／年　2年間

理学部が、中高生や保護者に向けた理系進路選択支援プログラムを船橋市・習志野市と連携して構築し、全国で10校採択の一つとして選ばれました。
申請書作成支援　事業運営支援

2023年度　大学教育再生戦略推進費 **高度医療人材養成事業**
（医師養成課程充実のための教育環境整備）　総額 196,200,000 円（単年度）

大学病院における医学生の教育環境の充実等を図ることを目的に、本学の医療センターに最先端医療設備を購入し整備するための申請書の作成支援を行いました。
申請書作成支援

2024年度　大学教育再生戦略推進費 **ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業**
（社会的な要請に対応できる看護師の養成）　10,000,000 円／年　3年間

看護学部が、「テーマ1 医療的ケア児支援における指導的立場等の看護師養成のための教育プログラムの構築」へ申請するための、学内外との連携調整、申請書作成支援を行いました。
1次審査を通過し、2次審査のヒアリング資料作成も支援しました。
申請書作成支援　ヒアリング資料作成支援

研究者向け研究助成金情報

教育・研究支援センターのHPには、学内外の研究助成金情報を一括で確認できる**「学内外助成金情報」**を掲載しています。大学だけに届けられる学外助成金もありますので、ぜひご確認ください。なお、本学教職員でご自身の研究テーマに関連する助成金の情報提供を希望される方は、教育・研究支援センターまでメールでご連絡ください。

学内助成金情報

全学対象から学部対象まで、学内の補助金情報を一括で見ることができます。
掲載方法は、全学・学部ごとにわけ、締め切り日の昇順で掲載しています。

学外助成金情報

公的研究費情報	文部科学省および他府省庁（独立行政法人等を含む）から配分される競争的資金を中心とした公募型の研究資金「e-Rad で対象となる公募一覧」の情報を公開しています。
公益信託研究助成金情報	公益信託による奨学金・研究助成金等の募集情報を公開しています。
各種財団等の助成金情報	大学にて受信の助成金情報を日々更新して掲載しています。

学内外補助金事業支援

東邦大学重点領域研究補助金
Toho University Grant for Research Initiative Program (TUGRIP)

東邦大学重点領域研究補助金（TUGRIP）は、本学に在職する研究者が原則として学部や研究科を超えて共同で行う学術研究活動を支援することにより、大学のブランディングに資する研究を推進することを目的として、令和2年度に創設されました。第1回の採択は、医学部中野裕康教授を研究代表者としたグループでスタートしました。その後、令和4年度には理学部村本哲哉准教授を代表としたグループ、令和5年度には医学部船戸弘正教授を代表としたグループが採択され、令和6年度には理学部岸本利彦教授を代表としたグループが加わりました。申請に向けたグループ編成は、学内横断的な研究者の交流の機会となっています。また、採択チームの各種セミナーでは、横断的研究の面白さを教職員や学生・大学院生に伝えてくれています。
TUGRIPの申請に向けて、採択チームの研究代表者がチームづくりのコツや横断的研究の面白さを伝える動画を作成し、HPに掲載しています。今後の申請のためだけではなく、学内横断的研究の楽しさも伝わる内容です。

採択グループ

TUGRIP 研究代表者からのメッセージ

令和2年度、4年度、5年度、6年度採択の研究グループの代表者4名から、TUGRIPの面白さやこれからの申請者に向けたメッセージをいただきました。
質問は下記の6項目で、7分ほどの動画です。ぜひご覧ください。

メッセージ動画配信中！

Question
① 申請（準備）の段階で、重要なことはなんだと思いますか？
② （採択年度の）研究のユニークな点はどんなことでしょうか？
③ どのような研究チームづくりを目指しましたか？
④ 学内の共同研究で工夫する点があるとすればなんでしょうか？
⑤ 大学に TUGRIP のような大型補助金がある利点はなんでしょうか？
⑥ 最後に次の申請者に向けてメッセージをお願いします。

令和2年度採択

研究代表者
医学部　中野 裕康 教授

令和4年度採択

研究代表者
理学部　村本 哲哉 准教授

令和5年度採択

研究代表者
医学部　船戸 弘正 教授

令和6年度採択

研究代表者
理学部　岸本 利彦 教授

TUGRIP の公募について

毎年 10 月～ 11 月上旬にかけて、次年度の公募を行います。詳しくは、教育・研究支援センター HP「学内外助成金」の項目から、「東邦大学重点領域研究補助金（TUGRIP）」に進んでください。こちらに公募関係資料を掲載いたします。なお、申請に関するご相談などは、教育・研究支援センターまでご連絡ください。

●【TUGRIP】令和 5 年度採択事業 2 年目成果報告

研究代表者
医学部
船戸 弘正 教授

研究課題名	脳神経系システムと行動可塑性の機構解明　－ブレインテック基盤の確立を目指して－
研究代表者	船戸 弘正 教授（医学部 解剖学講座微細形態学分野）
研究分担者	狩野 修 教授（医学部 内科学講座脳神経内科） 上田（石原）奈津実 准教授（理学部 生物分子科学科）／ 我妻 伸彦 講師（理学部 情報科学科）
実績報告	研究実施計画に沿って、船戸らは、ノンレム睡眠を特徴づける脳波徐波を制御する技術的基盤を確立するため、脳領域特異的な操作と可視化に取り組んでいる。マウスの巣作り行動を制御する視床下部内ニューロン集団の同定やリン酸化酵素SIK3を改変したマウスの睡眠解析などの研究成果を公表するとともに、睡眠覚醒制御に必須の役割をもつ神経ペプチド・オレキシンの受容体の詳細な発現情報を、本学で開発した新しいmRNA可視化法であるisHCR法を用いて可視化し、論文として公表した（Tsuneoka, Funato, eNeuro 2024）。狩野らは、筋萎縮性側索硬化症患者に対して、下肢タイプロボットスーツHALを用いた歩行障害に対する運動機能維持効果の最適化のための検討を行っている。上田らは、細胞骨格セプチンに着目した、スパインの構造変化による記憶生成の分子機構の解明に取り組み、順調に進展している。我妻らは、神経ネットワークの生成する同期活動の現実的な再現に成功している。上田の得た実験データを我妻がモデル化するなど、学内および学外との共同研究も成果を挙げている。 計画通りにTUGRIPセミナーおよびTUGRIPテクニカルセミナーを開催した。複数の論文を発表した他、公的資金を含む学外研究助成金の獲得実績も順調に推移している。

● 学内研究推進活動

TUGRIP セミナー

第 3 回 TUGRIP セミナー 2024年 7月23日	テーマ	視床下部が制御するマウス生得的社会行動の神経基盤
	演　者	恒岡 洋右 准教授（医学部 解剖学講座微細形態学分野）

TUGRIP テクニカルセミナー

第 2 回 テクニカルセミナー 2025年 3月25日	テーマ	個体から分子までの多階層解析手法 - 脳・神経研究を題材として -
	演　者	上田（石原）奈津実 准教授（理学部 生物分子科学科）

●【TUGRIP】令和 6 年度採択事業 1 年目成果報告

研究代表者
理学部
岸本 利彦 教授

研究課題名	包括的ゲノム科学推進プラットフォーム（バイオインフォマティクス共同研究拠点）の構築
研究代表者	岸本 利彦 教授（理学部 生物分子科学科）
研究分担者	土屋 勇一 准教授（薬学部 生化学教室）／須磨﨑 真 助教（医学部 大森病院 乳腺・内分泌外科） 鹿島 誠 講師（理学部 生物分子科学科）／ 山口 新平 講師（理学部 生物学科）
実績報告	令和6年度採択チームの研究は、安価なRNA-Seqなどによるオミクス解析とバイオインフォマティクス解析を進める共同研究拠点構築を目的としている。今年度、鹿島は、約400人が同時解析可能な高性能サーバーを導入し、約50件のバイオインフォマティクス共同研究をスタートし、以下の成果を得た。岸本は、高温バイオプラスチック生産を可能するプラスチック高生産大腸菌に共通する変異の同定に成功した。土屋は、組織線維化と老化促進のモデルマウスでRNA-Seqを行い、臓器ごとに変動する遺伝子群を同定した。須磨﨑は、がん患者血清中のがん細胞由来細胞外小胞の表面抗原、およびがん患者血清からがん細胞由来の細胞外小胞を単離する技術の2件の特許出願を完了した。また、山口は、①マウス胚性幹細胞（mESC）のための新規無血清培地「DARP培地」の開発と応用、②細胞分化に重要な新規DNAメチル化酵素の発見と機能解析、③肝細胞分化制御に重要な因子の解析に関し、3つの論文を発表した。このように、多様な研究分野にまたがる共同研究が同時進行可能な研究基盤が構築できている。

● 学内研究推進活動

TUGRIP セミナー

第 1 回 TUGRIP セミナー 2024年 4月25日	テーマ	包括的ゲノム科学推進プラットフォームを介した共同研究について
	演　者	鹿島 誠 講師（理学部 生物分子科学科）
第 2 回 TUGRIP セミナー 2024年 12月2日	テーマ	ゲノム科学推進プラットフォームでの RNA-Seq 利用の実際
	演　者	鹿島 誠 講師（理学部 生物分子科学科） 石山 雄一郎（理学研究科生物学専攻 修士2年）

●【TUGRIP】令和４年度採択事業 最終成果報告

研究課題名	新規創薬プラットフォーム構築　－ 成人型組織細胞の代替細胞の開発 －
研究代表者	村本 哲哉 准教授（理学部 生物学科 分子発生生物学研究室）
研究分担者	内藤 篤彦 教授（医学部 生理学講座 細胞生理学分野） 安齊 洋次郎 教授（薬学部 微生物学教室）／ 飯坂 洋平 講師（薬学部 微生物学教室） 山口 新平 講師（理学部 生物学科 幹細胞リプログラミング研究室）

研究代表者
理学部
村本 哲哉 准教授

実績報告

令和４年度採択のプロジェクトでは、新薬開発に利用可能な成人型肝細胞モデルの確立を目指し、研究を進めた。創薬プロセスにおいて、薬剤候補が個人の遺伝的背景や体内酵素活性の違いにより多様な反応を示すため、幅広い患者層に対応できる評価システムが必要とされる。しかし、成人組織細胞を安定的に供給する方法は依然として確立されておらず、とりわけ薬物の主要代謝器官である肝臓モデルの開発が急務であった。従来の多能性幹細胞（ES細胞やiPS細胞）を用いた分化誘導では未熟な肝細胞が得られるに留まり、創薬に有用な成人型の成熟肝細胞の確保が課題となっていた。

本研究では、肝細胞モデルとしての HepaRG 細胞を活用し、成人肝細胞における薬物代謝酵素シトクロムP450（CYP）遺伝子群の発現動態とその調節メカニズムを解明することを目指した。HepaRG細胞は、未分化状態から分化に伴い成人型CYP発現を示す成熟肝細胞へと移行する特性をもつため、創薬研究の基盤細胞としての有用性が期待されている。本研究では、特にCYP3A4G/7R 蛍光レポーターシステムを組み込んだ HepaRG 細胞を用い、成人型 CYP3A4 発現を示すGFP（緑色蛍光）と胎児型CYP3A7 発現を示すDsRed（赤色蛍光）の変動を観察した。このシステムの活用により、HepaRG細胞の未分化・分化状態の切り替えや、分化過程で重要な制御因子について新たな知見を得ることに成功した。これにより、肝細胞の可塑性に関する理解が進展し、分化成熟プロセスの分子メカニズムを解明する成果を挙げた（Asano *et al.*, PLoS One, 2024）。

さらに、HepaRG細胞はCYPファミリー遺伝子を広く発現する有用なモデルであるが、薬剤代謝に重要なCYP2D6の発現が低いため、CYP2D6遺伝子を強化した HepaRG細胞株の樹立を行った。この新規細胞株では、従来型に比べてCYP2D6活性が数千倍に向上しつつも、HepaRG 細胞の分化能を保持し安定的に培養可能であった。特に薬物の肝毒性評価や代謝研究において、ヒト肝細胞に近い代謝特性をもつモデルとして、今後の創薬プロセスに大きく貢献することが期待される（Obara *et al.*, in revision）。

本プロジェクトを通じ、分化成熟した肝細胞の再生機構や多様な代謝環境に適応する可塑性に関する特性解明が進み、HepaRG細胞の可塑性や分子特性に関する情報リソースが蓄積された。また、CYP2D6高発現HepaRG細胞という創薬に応用可能な新たなプラットフォームの提供にも成功し、今後の薬物評価システムの信頼性向上に寄与する基盤が整った。

情報発信

プレスリリース

ドーパミンニューロンの可視化に成功 ～ ドーパミン産生の鍵因子の脳領域特異的インプリンティング発現を発見 ～	2022 年 12 月 19 日／山口 新平
世界初！ ES 細胞用の科学的再現度が高い無血清培地を開発 ～ 培養肉の生産技術確立にもつながる研究成果 ～	2024 年　5 月 20 日／山口 新平
オプトジェネティクス技術で細胞内シグナル伝達を操作 ～細胞内シグナルの周波数選択的な転写因子の振る舞いに新たな洞察 ～	2025 年　1 月 15 日／村本 哲哉

広報活動

理学部初のTUGRIP研究代表事業が令和４年に誕生し、これを記念して、研究代表者の**村本准教授**、**古田副学長兼理学部長**、教育・研究支援センターURAの**仁木特任教授**による、**研究内容や今後の展開についてを語る座談会**を実施した。
（詳細は、2022年度 教育・研究支援センター報告書ｐ7-8 参照）

2022年度報告書

学外補助金採択

内藤記念科学奨励金・研究助成	母親・父親ゲノムが脳で果たす代替不可能な役割
持田記念研究助成金	哺乳類の父母染色体で異なるゲノム機能の解明
第一三共生命科学研究振興財団研究助成	ゲノムインプリンティングによる脳の発生分化制御機構

● 学内研究推進活動

TUGRIP セミナー

第１回 TUGRIP セミナー 2022年９月29日	テーマ	細胞を生きたまま観察する「ライブイメージング」
	演　者	村本 哲哉 准教授 (理学部 生物学科 分子発生生物学研究室)
第２回 TUGRIP セミナー 2023年３月17日	テーマ	放線菌の遺伝子組換えと抗生物質生産への応用
	演　者	安齊 洋次郎 教授（薬学部 微生物学教室）
第３回 TUGRIP セミナー 2023年12月15日	テーマ	発生工学技術で世代を超えるエピゲノムの秘密に迫る
	演　者	山口 新平 講師（理学部 生物学科 幹細胞リプログラミング研究室）
第４回 TUGRIP セミナー 2024年３月18日	テーマ	クロマチンリモデリング因子による細胞の運命決定機構の解明
	演　者	内藤 篤彦 教授（医学部 生理学講座 細胞生理学）
第５回 TUGRIP セミナー 2024年９月20日	テーマ	今さら聞けない多種多様な役割 ～生体触媒「シトクロム P450 酵素」～
	演　者	飯坂 洋平 講師（薬学部 微生物学教室）
第６回 TUGRIP セミナー 2024年12月19日	テーマ	ヒト肝細胞代替モデルの新規創薬プラットホーム構築に向けて
	演　者	小原 千寿香 博士研究員（理学部 生物学科）

TUGRIP 成果報告会

2025年３月10日

TUGRIP 令和４年度研究の３年間の研究成果を報告する最終報告会を、2025年３月10日にオンラインで開催しました。本研究では、新薬開発で活用できる成人型肝細胞モデルの確立を目指し、研究を進めてきました。今回の最終報告会では、理学部・医学部・薬学部から４つのグループが 3年間の研究成果とこれからの展開について報告しました。渡邉学長、古田副学長兼理学部長のご挨拶があり、発表内容についてのディスカッションでは活発な意見交換がありました。

発表①	テーマ	光操作 × ライブイメージング：細胞応答の時空間ダイナミクス
	演　者	村本 哲哉 准教授（理学部 生物学科 分子発生生物学研究室）
発表②	テーマ	生合成に関与する CYP の機能解析及び分析法の応用
	演　者	安齊 洋次郎 教授／飯坂 洋平 講師（薬学部 微生物学教室）
発表③	テーマ	創薬プラットフォームとしての幹細胞由来細胞
	演　者	内藤 篤彦 教授（医学部 生理学講座 細胞生物学）
発表④	テーマ	創薬・発生メカニズム解明のための新規プラットフォームの構築
	演　者	山口 新平 講師（理学部 生物学科 幹細胞リプログラミング研究室）

学内外補助金事業支援に関する自己点検・評価

評価

今年度の学内補助金事業については、TUGRIPの公募・審査や採択事業の運営支援は十分に貢献できた。しかし、新規の研究グループ構築については課題が残った。また、学外補助金については、支援をした看護学部の申請が書類審査を通過したため一定の貢献ができたといえる。

実績

学内補助金

- 過年度採択チームの代表者からのメッセージ動画を掲載している。令和７年度募集に際しては、令和６年度研究代表者のメッセージ動画を作成し、追加掲載をした。
- 令和4、5、6年度の採択チームの運営支援は、6件のセミナーと最終報告会の開催支援を行い、4件の動画を編集し、HPに掲載した。
- TUGRIPは、令和７年度の公募・申請受付を行い、応募があった申請について厳正な審査を行った。しかし、採択基準を上回るものではなかったため採択事業は誕生しなかった。

学外補助金

- プレアワード支援は、看護学部が申請したポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業（社会的な要請に対応できる看護師の養成）について、自治体との連携の接点づくりを支援し、申請書の作成支援も行った。書類審査を通過し、ヒアリングに進んだ際のプレゼン資料作成も支援した。
- ポストアワード支援は、令和5年度採択の女子中高生の理系進路選択支援プログラムの推進委員会にメンバーとして参加し、運営を支援した。また、令和2年度採択の感染症医療人材養成事業は、クロージングに向けて学内調整を行った。

研究助成金情報の発信

- 本学に届く民間助成金情報を HPに掲載し、研究者のテーマに近い助成金がある場合は、個別に情報提供を行った。

今後の課題

- 助成金情報については、ユーザーの意見を聴取し、学内周知の方法を検討する。
- 今年度のTUGRIPは、申請件数が限られたので、今後は学内の研究チームづくりへの支援も必要である。

社　会　連　携　推　進　活　動

地域連携に関する基本方針・計画（令和５年度～7 年度）

本学は令和 2 年に**地域連携に関する基本方針**ならびに**3年間の実行計画**を策定しました。2回目の中期計画を立案し、令和7年度までの計画を立案しました。新たな計画にはさらに具体的で発展的な活動にするために「地域交流」を加え、12項目の活動指標と3 項目のアウトカム指標を設けました。

基本方針

東邦大学は「自然・生命・人間」の建学の精神に則り、多様な学術分野の教育・研究と医療で地域社会に貢献するために、地方自治体等と協働して連携活動を推進する。

基本方針に基づく取り組みと目標・実行計画

基本方針に基づき目標を達成するために、以下の取り組みを推進する。

体制整備

目　標　本学が連携協定締結する地方自治体と地域連携活動を推進するための体制整備をする。

計画概要

- 地方自治体と定期的に意見交換会を実施する。
  活動指標①（各自治体：年 1 回以上）
- 本学の教職員・学生の地域連携活動現状を把握し、ホームページ等で公開する。
  活動指標②（年 1 回以上）
- 地域連携のニーズをキャッチし、学内協力者をつなぎ社会貢献活動を推進する。
  活動指標③（協力者の推薦件数：年 1 名以上）

生涯教育

目　標　地域住民の生涯に渡る学びに寄与する教育プログラムを開発、実施する。

計画概要

- 社会人向け講座の開催数を増やし、参加人数を増加させる。
  活動指標④（令和 4 年度 53 回開催→令和 7 年度 10%アップ）
- 地方自治体や地元産業界等からのニーズに対応すべく、講師を派遣する。
  活動指標⑤（令和 4 年度 41 件→令和 7 年度 10%アップ）

人材育成

目　標　地域で活躍する専門職が地域課題を解決できる能力を育成するプログラムを開発、実施する。

計画概要

- 地方自治体又は地元産業界等から意見を聴取したうえで、「履修証明プログラム」を開講し、社会人受講者へ発行する履修証明書を増加させる。
  アウトカム指標①（満足度：80%以上）
- 自治体や産業界と連携した社会人対象の人材育成講座等を実施する。
  アウトカム指標②（満足度：80%以上）
- 地域の就業者向けプログラムを実施する。
  アウトカム指標③（満足度：80%以上）

共同研究

目　標　地域課題解決を目指して、地方自治体や企業と連携した共同研究を推進する。

計画概要

- 共同研究に向けた地域課題抽出のための意見交換を実施する。
  活動指標⑥（年 5 回以上）
- 地方自治体や企業と連携した共同研究を実施する。
  活動指標⑦（年 2 件以上）
- 共同研究成果を社会に発信する。
  活動指標⑧（年 4 件以上）

地域交流

目　標　地域と交流できる機会や環境を整え、地域社会と大学との連携を強化する。

計画概要

- 大学施設利用の推進
- 学生が地域イベントに参加できる機会を増やす。
  活動指標⑨（年 3 件以上）
- 地域住民が大学の活動に参加できる機会を増やす。
  活動指標⑩（年 5 件以上）

活動評価

目　標　更なる活動の発展に繋ぐために定期的に評価を行い、見直しを行う。

計画概要

- 本学の地域連携に関する基本方針および実行計画について自己評価を行う。
  活動指標⑪（年 1 回）
- 本学の地域連携に関する基本方針および実行計画について外部評価を受ける。
  活動指標⑫（年 1 回）

リカレント教育に関する中期事業計画（令和５年度～7 年度）

大学は人々に学びの場を提供することが社会的使命といわれています。本学も５学部３病院で一般の方が参加できる公開講座や各種セミナーを開催してきましたが、令和5年度に**「リカレント教育に関する中期事業計画」**を立案し、推進する方向性を学内外に示しました。これからも、ここに示す教育推進方針に則り、小中学生から社会人、専門家の方まで幅広い皆様が学び続ける場、そして機会を提供していきます。

東邦大学におけるリカレント教育推進方針

少子高齢化、高度情報化、技術化、国際化など社会の急激な変化によって生ずる諸問題に対して主体的に考え行動していくため、社会は生涯を通じて高度な教養と技術を学習する機会を求めている。このような要請に応えるべく、東邦大学は、自然科学系総合大学としての教育・研究活動の成果を、地域社会、市民、専門職業人に提供することにより、生涯にわたって人が学び続け、時代への主体的対応を行っていくことを支援する。また、これらの取り組みは、大学による社会貢献活動であるとともに、大学にとって、多様な社会人との接点を通じた教育・研究活動の向上、自治体・産業界等との協力・連携の強化に資する貴重な機会となる。以上から、社会の要請および社会人の学ぶ意欲に的確に応えるため、適時に社会のニーズを把握し、各種施策の強化・拡充を図るとともに、情報へのアクセスが容易となるよう、広く公表・周知し、社会人のワークキャリア・ライフキャリアの向上に資する多様なリカレント教育等の社会人学び直しに関する取り組みを推進していく。

事業計画

自然科学系総合大学としての教育・研究活動で得られた知見に基づき、それを広く社会に還元するため、社会人学び直しに関する以下の取り組みを行う。

①アップスキリングに関する施策　②リスキリングに関する施策　③職業に結びつかない技術・教養の獲得を支援する施策

東邦大学のリカレント教育一覧

本学には、５学部３病院でさまざまなリカレント教育のプログラムが開催されています。どなたでも参加可能な講座から、専門職のための講座、そして大学院の科目履修生や聴講生制度まで幅広く開講しています。開催に関する情報は、各学部・病院等の HP をご確認ください。

どなたでも学べる講座

医学を学ぶ、医療を学ぶ
医学部 公開講座
大森病院 公開講座
大橋病院 公開講座
佐倉病院 公開講座

薬学を学ぶ
薬学部 公開講座
薬草園一般公開

理学を学ぶ
理学部 公開講座

看護を学ぶ
看護学部 公開講座
・地域連携教育支援センター
・地域共創実践研究センター
健康科学部 公開講座

専門職が学べる講座

高等学校教員
高等学校教員対象サイエンス教室

薬剤師
薬剤師生涯学習認定制度

看護師
看護師特定行為研修

行政職員
履修証明プログラム
（地域における感染症エキスパート人材育成プログラム）

大学院で学ぶ

大学院看護学研究科
科目履修生／聴講生

どこでも学べる講座

教育・研究支援センター
研究オンライン講座（公開講座）
官学連携人材育成講座　動画配信

次世代が学ぶ講座

医学部・看護学部
小学生夏の医学校（小学６年生対象）

医学部
中学生未来の医学
“夢”スクール（中学生対象）

薬学部
夏休み薬学教室（中高生対象）

理学部
ふなっこ未来大学（船橋市小学生対象）
理学部出張講義（高校生対象）
令和５・６年度 JST女子中高生理系進路選択支援プログラム採択事業

大学間連携

東邦大学は、2010年に**千葉大学**、2017年に**静岡大学**、そして2020年に**東京工業大学**と**包括協定を締結**しており、大学間連携によるお互いの強みを生かした教育・研究・社会貢献を推進しています。具体的な活動としては、千葉県下の大学と産業界が交流する「千葉エリア産官学公金共創イノベーションネットワーク」に参画し、本学の研究シーズの紹介の機会をつくり、共同研究への橋渡しをしました。そして、東京工業大学（現東京科学大学）とは、大学院生の実習受け入れに関する対応の支援を行い、今後の連携について話し合う機会をもちました。また、静岡大学と情報交換を行い、大橋病院の臨床の先生とのマッチング支援をしました。

東京工業大学（現 東京科学大学）　実践型アントレプレナー人材育成プログラム（PEECs）への協力

実践的な課題型学習および実習・演習を通じて、価値創造と社会変革を導ける人材養成を目指す、東京工業大学実践型アントレプレナー人材育成プログラム（PEECs）に本学の医療センター大森病院が協力しています。理工系大学院生が医療の現場を実習の場として見学することで、臨床現場の課題に直接触れ、医療者と語り、ユーザー視点での課題解決を目的にしたプロダクトやサービスの発明を目指します。2018年にスタートした本プログラムは、7年目を迎えました。コロナ禍で一時中止されていた臨床現場での実習も、昨年から再開され学生たちがより具体的に考える機会を提供しています。今年は初めて最終報告会を大森病院で開催し、実習先の教職員が会場につめかけました。

地域連携

東邦大学は、2013年より大森キャンパスと習志野キャンパス、そして医療センター3病院などが立地する自治体と連携して、地域を志向した教育・研究・社会貢献を推進するために包括協定を締結し活動をしています。また、地域の課題解決のための特定した領域に関する連携については、個別協定を締結しています。これまでに、大田区、印西市、白井市と協定を締結しました。さらに、地域課題を産学官の力で解決する三者協定にも参加しています。

包括協定を締結している自治体

大田区（東京都）	2013年4月	目黒区（東京都）	2014年3月
習志野市（千葉県）	2014年3月	船橋市（千葉県）	2014年4月
佐倉市（千葉県）	2014年3月	世田谷区（東京都）	2016年1月

個別協定を締結している自治体

大田区	•災害時における学校施設の使用などに関する個別協定（2020年） •東邦大学と大田区との新型コロナウイルス感染症リスク対策に関する協定（2020年） •東邦大学と大田区とのウクライナ避難民等への支援に関する協定（2022年）
印西市	•生物多様性に関する印西市と東邦大学との連携協力に関する協定（2023年）
白井市	•生物多様性に関する協定（2023年）

産学官の三者協定

大田区／東邦大学／大塚製薬	大田区・学校法人東邦大学・大塚製薬株式会社による熱中症対策の推進に関する連携協定（2024年）

その他の自治体や企業・団体との連携

習志野市　習志野市長との意見交換会

令和7年1月31日、習志野市役所を訪問し、習志野市長との意見交換会を開催しました。本学からは渡邉学長、古田副学長兼理学部長、西脇センター長他が参加し、地域での取り組みや今後の連携活動について活発な意見交換を行いました。

船橋大神宮　船橋大神宮境内の生態系の調査に寄与

船橋大神宮（意富比神社）敷地内の自然共生サイトに申請する区域について、本学理学部生命圏フューチャーセンターが生態系の管理およびモニタリングの計画・実施を支援していきます。この支援の実施にあたり、両者間で生態系調査に関する覚書を交わしました。

佐倉市　連携協定締結大学と佐倉市の連絡会議

令和6年10月30日、佐倉市が連携協定を締結している大学が一同に会した連絡会議が開催されました。参加した各校が自治体との連携活動を報告し、意見交換を行いました。

日本生命　医学部に社会連携講座を開設

東邦大学と日本生命は、メンタルヘルスに関するワンストップ相談・支援サービスとそのシステムの普及を目指し、2023年に医学部に社会連携講座「社会実装精神医学講座」を設置しました。

目黒区　公民連携プラットフォーム

令和5年からスタートした目黒区公民連携プラットフォームに参画しています。令和6年度は4回のセッションがあり、会員同士の連携の機会が増えています。

千葉市　千葉市動物公園との連携協定

令和7年、東邦大学は千葉市動物公園およびその周辺地域の生物多様性の保全・再生を図ることを目的に協定締結に向け、準備をしています。今後、教育研究活動の推進や人材育成がさらに進むことが期待されます。

地域連携報告会

大学の地域連携活動の推進には、地域の方や地域で働く方、そして企業の方に本学の活動を知っていただき、要望を伺う機会をもつことが重要です。本学では、2023年に策定した地域連携に関する基本方針に基づくさまざまな活動を報告する**「東邦大学地域連携に関する成果報告会」**を開催しました。当日は、大田区に関係のある企業15社23名、大田区職員4名の方にご参加いただきました。まず初めに、西脇センター長から本学の地域連携活動の報告を行い、続いて意見交換を行いました。参加者からは、本学の地域連携活動に期待すること、これまでの活動で評価が高いこと、リカレント教育に期待すること、大学の教育や研究における新たな連携活動に関する提案など、多岐にわたるご意見をいただきました。

開催日	2024年11月21日（木）	場所	大田区役所2階会議室
参加者	企業15社23名／大田区職員4名／東邦大学8名		
報告内容	①東邦大学地域連携に関する方針・計画　②地域連携の推進 ③大学間連携の推進　④リカレント教育の推進		

大田区との地域連携の推進

大田区との定例会議

大田区とは包括協定や個別協定をもとに定期的な会議を開催しています。新型コロナウイルス感染症に関する個別協定からスタートしたコア会議は、年1回開催され、情報共有や課題解決について検討します。この他に、公民連携の担当者同士が参加する担当者会議を毎月開催しています。

官学連携人材育成講座

大田区との連携でスタートした官学連携人材育成講座は、5年目を迎えます。講座のテーマは毎年両者で話し合い、ニーズに沿ったものを選んでいます。今年度は、大田区の熱中症対策事業と連携したテーマを3回、そして高齢者の感染症対策を1回、合計4回開催しました。

2024年 9月24日	職場の熱中症対策
2024年 9月26日	高齢者の熱中症対策
2024年10月25日	大田区の熱中症の現状と課題
2024年12月 4日	高齢者の感染症対策

履修証明プログラム

2021年からスタートした履修証明プログラムは、医学部と大田区の連携のもと開講されました。「地域における感染症対策エキスパート人材育成プログラム」は、感染症の基礎から専門的知識までを講義30時間、演習30時間で学びを深めます。

基本構想「アンケート」

大田区の新たな目指すべき将来像を描く「大田区基本構想策定」のアンケートに、本学の医学部・看護学部の学生が協力しました。

共同研究

本学は、大田区との個別協定に基づき、「人生100年を見据えた健康寿命延伸プロジェクト」として大田区との共同研究を行っています。医学部社会医学講座の西脇教授、朝倉教授を中心としたメンバーが、大田区の健康に関連するさまざまな情報を18特別出張所地区ごとに分析しています。その成果を発表する大田区職員向け研修会が、令和6年11月15日に開催されました。また、今年度からは医学部社会医学講座予防医療学の朝倉教授が、大田区教育委員会と連携し、小学校給食に関する共同研究を開始しました。

「スマイル大森」オープニングイベントへの参加

2024年12月1日、大田区入新井地区に新しい複合施設「スマイル大森」がオープンしました。本学の東邦フィルハーモニーがオープニングイベントに招かれ、2回演奏を行いました。

当日は会場を埋め尽くした区民の方から、大きな拍手をいただきました。

大田区「こどもまんなかアクション」への参加

2024年12月15日に開催された、大田区の「こどもまんなかアクション」を区民に広く周知するシンポジウムに、本学も参加しました。そして、鈴木区長と一緒に本学の取り組み目標である「こどもたちの健康をまもり、豊かに学ぶ場を提供します。」を宣言しました。

東邦大学・大田区・企業との連携

大田区熱中症対策事業 ～大田区・東邦大学・大塚製薬が連携し区民の命を守る～

令和6年4月30日、**熱中症から大田区民を守る**ために、大田区・東邦大学・大塚製薬が3者で熱中症対策に関する協定書を締結しました。この活動では、3者が中心となり、企業が参画する**大田区熱中症コンソーシアム**も立ち上げ、6月と11月に会議を行いました。**産学官が連携して熱中症に対する正しい知識を届ける活動**を繰り広げました。

熱中症に関する正しい情報の提供

本学は、熱中症に関する知識を手軽に学べるツールとして、ポスター、専門家による解説動画を作成し、正しい熱中症の知識を伝えることに協力しました。誰もがわかりやすい合言葉「あつい夏には知恵が効く」を掲げ、PRをしました。

データから見る大田区の熱中症の現状

疫学の専門家による、大田区と東京都の熱中症搬送データを分析・比較をすることで、大田区の特徴を可視化し、次年度に向けた提案をしました。

「大田区ナナハト学校」への参加

大田区とイトーヨーカドー大森店、セブンーイレブン・ジャパンが連携して開催する、子育てイベント「大田区ナナハト学校」に東邦大学も参加しています。今年度は、5月、10月、2月に参加し、大学の専門的知識をわかりやすく伝えました。

大田区ナナハト学校４限目

2024年5月25日・26日開催

身の回りの空気と私たちの健康

「空気ちゃんと時間旅行～知って減らす PM2.5 ～」

空気中の微小粒子状物質（PM2.5）とは何か？ をわかりやすく説明し、私たちの身体との関係についての理解を深めていくことをテーマにしました。漫画を使って伝え、実験も行いました。

大田区ナナハト学校５限目

2024年10月18日・19日開催

どうして食塩のとりすぎはよくないの？

全国の小学生対象の調査で、男女ともにとりすぎる栄養素の１位は食塩。とりすぎはどうしてよくないか、減らすコツについて、ポスターでわかりやすく解説しました。

大田区ナナハト学校６限目

2025年2月22日・23日開催

バイキンの世界

バイキンは小さくて目に見えないけれど目で見ることがとても大切です。
バイキンが見えるようになったら、
どんな世界が広がっているんでしょうか。
イラストでわかりやすく説明しました。

大田区寄付講座　医学部ウェルビーイング地域共創講座

設置の経緯と講座の編成

大田区とは2013年に包括協定を締結し、以降さまざまな分野で連携を深めてきました。2020年、新型コロナウイルス感染症蔓延時には、ただちに**「東邦大学と大田区との新型コロナウイルス感染症リスク対策に関する協定」**を締結し、定期的にコア会議を開催してまいりました。さらに、同年11月からは、医学部に寄付講座**「地域連携感染制御学講座」**の設置を大田区より御提案いただきました。新型コロナウイルス感染症については、完全な終息には至らないものの、一定の落ち着きを見せていることから、従来の地域連携感染制御学講座の取り組みは継続しつつ、もう少し幅広い地域の健康課題解決に資する取り組みを実施する母体としての寄付講座をご提案いただき、2024年度から東邦大学医学部に**「ウェルビーイング地域共創講座」**を設置するに至りました。なお、本講座は**社会医学部門**と**地域感染制御学部門**が連携して活動をしていきます。

社会医学部門

社会医学部門では、地域課題解決に資する調査・研究などを通して、課題に対する専門的知見に基づく助言を行うことなどを柱として、その他にも産官学連携促進や、広報・啓発など幅広い活動をしております。取り組み例として、熱中症の救急搬送に係る大田区データを詳細に分析し、大田区、東邦大学、大塚製薬が核となって形成された熱中症コンソーシアムの活動に生かしております。また、5月および10月の**「大田区ナナハト学校」**に出展し、それぞれ**「知って減らすPM2.5」**と**「こどもと食事と健康」**について、区民への啓発に努めました。

東邦大学
ウェルビーイング
地域共創講座

地域感染制御学部門

地域連携感染制御学部門は、大田区と連携し区民の皆様が安心・安全に暮らせるように、感染症に関する **(1) 区民に対するタイムリーな情報発信、(2) 区職員と連携した感染症教育・啓発活動、(3) 大田区産業を生かした新しい感染対策の実践** を行っています。大田区からの感染症に関わる相談に対応し、関係者への提言や勉強会への参加もしています。区民向けの活動としては、HPで正しい情報の発信や区内で行われるイベントなどに参加し、わかりやすく伝える活動も積極的に行っています。

社会連携推進活動に関する自己点検・評価

評価

大田区寄付講座の改組、次年度に向けた履修証明プログラムの拡大を始めとする実績をあげ、社会連携活動をより広く発展させることができた。
改革総合支援事業タイプ3に選定され、経常費補助金の加算に貢献できた。

実績

- 地方自治体との意見交換会を大田区12回（うち、コア会議１回）、目黒区３回、習志野市１回開催した。（活動指標①）
- 本学の教職員・学生の地域連携活動をHPに3回掲載した。（活動指標②）
- 大田区からの依頼を受け、区の委員会に２名を推薦した。（活動指標③）
- 大田区と連携して開催している官学連携人材育成講座を４回開催した。開催後の事後アンケートの結果では、4回の満足度の平均は89.7%であった。（アウトカム指標②）
- 11月には、行政職員や企業を対象にした地域連携活動の報告会を開催し、本学の活動に関する意見交換ができた。（活動指標⑫）
- 大田区の寄付講座を新たに「ウェルビーイング地域共創講座」に発展改組し、運営を支援した。
- 履修証明プログラム（感染症に関するプログラム）は、2025年度から大田区以外の行政職員も参加できるようにした。また、医学部の社会実装精神医学講座で 2025年度開講予定の履修証明プログラムの準備の支援を行った。
- 大学間交流では、東京科学大学（旧東京工業大学）と新たな協定書締結に向けた話し合いを行った。また、東京科学大学大学院生の大森病院のフィールドワーク受け入れに関する支援を行った。
- 地域住民が大学の公開講座により参加しやすいように、大田区の生涯学習情報を掲載するサイトに 15件の情報を提供した。（活動指標⑩）
- 大田区、大塚製薬と熱中症コンソーシアムを立ち上げ、会合2回の他、セミナーの実施や啓発ツールの作成を行った。
- 社会連携に関する取り組みは、令和6年度文部科学省私立大学等改革総合支援事業タイプ３（地域社会の発展への貢献）に選定され、経常費補助金の加算につながった。

今後の課題

- 包括協定を締結しているが、交流が少ない自治体および大学との定期的な交流機会の構築を検討する。
- 包括協定を締結していない自治体や大学との連携を模索する。

改革総合支援事業（地域社会の発展への貢献）選定

令和 6 年度文部科学省私立大学等改革総合支援事業 タイプ 3（地域社会の発展への貢献）選定

本学は、令和6年度文部科学省私立大学等改革総合支援事業タイプ3（地域社会の発展への貢献）に選定されました。今年度のタイプ3の選定率は22%で、全タイプの中で一番狭き門でした。これで、本学は令和2年度から5年連続で選定となりました。

改革総合支援事業とは、私立大学等における特色のある教育研究の推進や産業会・他大学との連携、地域との連携において、改革を全学的・組織的に取り組む大学等を支援するものです。取り組みは、タイプ1「特色のある教育の展開」、タイプ2「特色ある高度な研究の展開」、タイプ3「地域社会の発展への貢献」、タイプ4「社会実装の推進」の4つにわけられています。活動状況が事前の質問項目により得点化されて毎年基準点を超える大学が選定され、選定校にはタイプ別に特別補助交付金の交付があります（タイプ3は1,000万円程度）。この他に選定校には、経常費補助金の交付金額の増額などの対応があります。地域連携活動の推進は国の方針でもあり、活動が認められる大学には手厚い補助が行われます。

2025 年度計画

全学的な研究支援活動

- 全学的な教育研究支援活動の推進（セミナー、ワークショップの企画・運営、アーカイブ配信）
- URAによる研究支援強化（コンサルテーションデスク継続実施、研究者紹介、プレスリリース支援）
- 論文適正化支援（論文剽窃検索ソフトの学内管理、利用啓発）
- 助成金情報の収集と発信、運用方法の見直し
- センター活動報告書の作成

学内大型補助金 TUGRIP の管理・運営

- TUGRIP 採択事業 FD・SD の開催支援
- 令和8年度運営業務全般（周知活動、応募書類の審査・採択業務）

外部資金の獲得と採択後の管理・運営支援

- 国の公的資金の情報収集と申請に向けた支援
- 採択後の事業管理・運営支援

社会・地域連携活動の推進

- 包括協定締結自治体との連携活動の継続実施
- 大学間連携活動の推進
- 新たな連携の模索

さらなる大学の発展に向けた新たな取り組みの支援

- カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリションの支援
- リカレント教育の推進
- 今後大学に求められる新規案件への対応

東邦大学 教育・研究支援センター　2024年度 報告書

2025 年 3 月　発行

編集・発行　東邦大学 教育・研究支援センター

〒143-8540 東京都大田区大森西 5-21-16
TEL. 03-3762-4151（内線 2481）
E-mail　edu-support@jim.toho-u.ac.jp
https://www.lab.toho-u.ac.jp/univ/edu-support/

東邦大学　www.toho-u.ac.jp